

## 第 13 話：横浜市内の小売店舗におけるサバ水煮缶詰の販売状況

日本水産缶詰輸出水産業組合・日本水産缶詰工業協同組合  
専務理事 松浦 勉

「サバ缶詰を食べよう」シリーズでは、第 1 話が「テレビ番組によりサバ缶詰人気上昇」、第 2 話が「消費拡大に伴うサバ缶詰の新商品開発」、第 3 話が「中央水産研究所のサバ缶マニア」、第 4 話が「サバ缶詰を使ったご当地料理」、第 5 話が「レシピ本にみるサバ缶詰料理」、第 6 話が「サバ缶レシピ本の出版動向」、第 7 話が「レシピ本とテレビ番組がきっかけを作ったサバ缶ブーム」、第 8 話が「統計資料からサバ缶ブームをみる」、第 9 話が「サバ缶ブーム下における青物 3 魚種缶詰の販売金額の動向」、第 10 話が「サバ缶の調理方法別消費動向」、第 11 話が「サバ缶ブーム時期におけるサバ缶の供給動向」、第 12 話が「マグロ缶ブームとサバ缶ブームの比較」についてお話しさせていただきました。第 13 話は、「横浜市内の小売店舗におけるサバ水煮缶詰の販売状況」についてです。

第 11 話でお話ししましたが、全国の小売店舗における水産缶詰（マグロ・カツオ以外）の上位 50 品目における輸入サバ缶の品目数は、POS データによると、上位 50 品目のサバ缶に占める輸入サバ缶の比率が 2018 年 6 月以降高くなっています。では、筆者が住む横浜市内の小売店舗では、国産と輸入のサバ缶の販売状況はどのようになっているのでしょうか。筆者は、横浜市戸塚区と横浜駅周辺（横浜市西区）の小売店舗を対象に、サバ水煮缶詰の販売状況を調査しました。本稿では、その調査結果を報告します。

国内の多くの水産缶詰工場では、毎年秋になると日本近海に來遊するサバを原料にしてサバ缶を製造します。このため、国内では、八戸前沖サバ、朝どれサバなど高鮮度・高品質をアピールするサバ缶が多く生産されてきました。

従来、外国から日本へ輸出されるサバ缶は、あまり多くありませんでした。しかし、サバ缶ブームにより国内消費が拡大したため、2019 年に入って東南アジア関係国からサバ缶の輸入量が増加してきました。日本が東南アジア関係国へ持ち込んだ日本産サバを原料に製造されたサバ缶が日本へ輸出されているためです。国産サバ缶と輸入サバ缶は、原料が同じ日本産サバであるので、一般消費者には国産と輸入のサバ缶の品質の違いがわかりにくい状況になっています。

国産と輸入のサバ缶は、どのような違いがあるのでしょうか。実は、内容総量に対する魚肉重量の比率が違います。この比率は、国産サバ缶が 75%程度、輸入サバ缶が 60%程度であり、国産サバ缶の比率の方が高くなっています。このため、安いと思って購入した輸

入サバ缶の魚肉重量が意外に少なく、価格が割高な場合もあります。また、国産サバ缶では、サイズが大きく脂の多いサバを使用しますが、輸入サバ缶ではサイズが小さく脂の少ないサバを使用することが多いようです。また、輸入サバ缶は原料魚の輸送時間が長いいため、鮮度が変化することがありますが、これは缶を開けて食べてみないとわかりませんね。

サバ缶ブームの到来により、2018年秋以降生鮮サバ価格の高騰によりサバ缶が値上がったため、国産サバ缶と輸入サバ缶の価格差利益を求めて、海外からサバ缶が大量に輸入されました。このため、2019年以降、日本国内の小売店舗で輸入サバ缶が大量に販売されるようになりました。筆者は、2019年8月17日・18日に横浜市戸塚区・横浜駅周辺の小売店舗におけるサバ水煮缶の販売状況を調査しました。その調査結果を、「表1. 神奈川県戸塚区・横浜駅周辺の小売店舗におけるサバ水煮缶詰の販売状況」に示しました。

小売店舗のタイプ	小売店舗の名称	サバ水煮缶詰の品目数	うち、国内産の品目数	うち、アジアから輸入した品目数	うち、大量販売の有無
デパート	サ・ガーデンス自由が丘(西武)	6	6		
	サ・ガーデンス自由が丘(そごう)	8	7	1(ベトナム産)	
スーパーマーケット	イオン	9	7	2(タイ産、ベトナム産)	1(タイ産)
	コープ	8	7	1(ベトナム産)	1(ベトナム産)
	成城石井	8	8		
	東急ストア	14	12	2(タイ産、タイ産)	
	マルエツ	8	7	1(タイ産)	1(タイ産)
ディスカウントストア	オーケー	6	4	2(ベトナム産、マレーシア産)	1(マレーシア産)
	オリンピック	8	5	3(タイ産、マレーシア産、韓国産)	
	ドンキホーテ	3		3(タイ産、タイ産、タイ産)	
コンビニエンスストア	セブンイレブン	2	2		
	ファミリーマート	4	3	1(フィリピン産)	
	ローソン	2	1	1(タイ産)	
百円ショップ	キャンドゥ	3		3(タイ産、タイ産、中国産)	
	シルク	1		1(中国産)	
	ダイソー	1		1(中国産)	

(注1)2019年8月17日・18日に販売状況調査を実施

小売店舗のタイプは、デパート(2店舗)、スーパーマーケット(5店舗)、ディスカウントストア(3店舗)、コンビニエンスストア(3店舗)、百円ショップ(3店舗)の5つに区分し、計16店舗で調査を行いました。

現在のサバ缶ブームとは、サバ缶のうち、「水煮缶」の消費が増えた現象をいいます。このため、今回の調査では、サバ缶のうち「水煮缶」を対象にしました。1店舗が販売するサバ水煮缶の品目数をみると、デパート、スーパーマーケットでは品目数が多く、特に東急ストアでは14品目の水煮缶が販売されていました。また、コンビニエンスストアと百円ショップではサバ水煮缶の品目数が少なく、特に2つの店舗の百円ショップでは、それぞれ1

品目しかサバ水煮缶が販売されていませんでした。

アジアからの輸入サバ水煮缶を販売していない店舗は、デパート、スーパーマーケット、コンビニエンスストアでそれぞれ1店舗だけみられ、他の13店舗ではすべて輸入サバ水煮缶を販売していました。この中には、缶詰を段ボールにいれたまま段ボールの上部を開けて、他の缶詰よりも安い価格で販売する、いわゆる大量販売が3つのスーパーマーケットと1つのディスカウントストアで見られました。大量販売は、これらの小売店舗以外でも行われていますが、調査日当日は計4店舗で見られました。また、中国産のサバ水煮缶は、3つの百円ショップだけで販売されていました。

また、16店舗におけるアジアからの輸入サバ水煮缶の延べ品目数は、タイ産が11品目、ベトナム産が4品目、中国産が3品目、マレーシア産が2品目、フィリピン産が1品目でした。なお、POSデータによると、2017年8月から2018年5月まで、輸入サバ水煮缶は、タイ産（いなばひと口さば水煮）の1品目だけが上位50位に入っていました。2018年6月から、複数のサバ水煮缶が上位50位の中に入りました。



タイ産（いなば食品(株)）



タイ産 (ネクストレード(株))

次回は、「ポルトガルの水産缶詰事情」についてご紹介します。引き続きよろしくお願ひ  
します。